

平和を求めて

40

私の町の戦争跡



### 東京大空襲で 区役所も焼失

一九四五年（昭和二十年）三月十日の未明、下町一帯を火の海に包んだ東京大空襲

れた文書庫を発見したのは江戸川区助役だった藤田昇さん。終戦から三十一年後でした。

### 終戦31年後に 偶然発見された文書庫

襲。江戸川区でも小松川、平井地域を中心に死者八百名、負傷者約五千八百人、罹災者四万人、焼失家屋は一万一千戸という大きな被害をもたらしました。当時、この地域にあった江戸川区役所の本庁舎は焼失。しかしコンクリート造りの文書庫（写真11右）だけは残りました。焼失を免

れた文書庫の当夜、藤田さんは江戸川区役所職員として宿直勤務にあたっていました。大空襲のさなか、藤田さんは同僚とともに重要文書を火災からまもるために戸籍や兵事関係の書類を必死に麻袋につめ、近くの用水路に沈めました。付近一帯は焼け尽くされました。藤田さんは文書庫も含め区役所すべてが焼失したと思いこんでいました。その藤田さんが焼け残った文書庫を発見したのは全くの偶然でした。それは一九七六（昭和51）年十二月十



世代を結ぶ平和像

五日。東京都の防災再開発の関係で文書庫近くのトタン製造工場・大阪鉄板が工場移転することになり、その日、「工場とお別れする会」がひらかれました。江戸川区助役だった藤田さんは、区長代理として「お別れする会」に参加。祭壇に玉くしを捧げるときに、祭壇脇にたつ文書庫を偶然発見したので。建物にはさまたれた黒ずんだ小さな建物がなんであったかを知る人はいかなかったのです。しかし区役所で文書庫を携わっていた藤田さんには、この

建物が文書庫だということがすぐわかりました。組合の平和行進での挨拶が保存のきっかけに

一九八五（昭和60）年三月十日、恒例の江戸川区職員労組の平和行進の集会在文書庫のある広場でおこなわれました。区長代理としてあいさつした藤田さんは、ここがかつての区役所だったことを知らない区職員が多いことを考え、文書庫の話などをおこないました。区職労委員長もこの事実を初めて知って驚き、戦争を忘れないためにも文書庫を保存しようとして藤田さんにもちかけ、組合としても区長に要請しました。こう

また文書庫がたつ公園の一角に「世代を結ぶ平和像」がたっています。平和像は藤田昇さん自身がよひかけ、区民ら一万二千名の協力で集められた浄財で建立されたものです。1・1財のブルース像は、圓鑄（えんつば）勝三氏の作で、一九九一（平成3）年三月一〇日に完成披露されました。なお、文書庫は当時、コンクリート・ブロック建築の第一人者だった中村鎮（まもる）氏の設計によるもので、関東大震災の翌年の一九五三（大正12）年に建てられたものです。

## 江戸川区が保存 戦火をまぬがれた区役所文書庫